

事務連絡  
平成20年 6月18日

社団法人全国旅行業協会 御中

国土交通省総合政策局観光事業課

平成20年岩手・宮城内陸地震に関する観光風評被害対策について

6月14日に岩手県内陸南部を震源として発生した地震（平成20年岩手・宮城内陸地震）に関する風評被害による観光需要への悪影響、被災地やその周辺の地域経済への打撃等を防止する必要があることから、貴協会におかれましては、下記の事項について、ご対応をお願いいたします。

記

- 1．被災地及びその周辺地域に関する正確な情報の収集に努め、旅行者に対し正確に提供するよう、傘下会員に対し要請願います。
- 2．今後、被災地及びその周辺地域より観光風評被害対策に関し旅行会社に対する説明の場を設けたい等の要請があった場合には、協力願います。

以上

担当：国土交通省総合政策局 観光事業課 中澤、吉岡 電話：03 - 5253 - 8329
---

## 宿泊キャンセル相次ぐ ホテルなど風評被害

岩手・宮城内陸地震で、被害がなかった東北各地のホテルなどに、宿泊客のキャンセルが相次いで入っている。関東、関西方面から訪れる予定だった団体客のキャンセルが目立ち、関係者は「安全だと説明しても理解してもらえない」と困惑顔。宮城県など行政も風評被害を心配し、「被災地以外の観光に支障はない」とするチラシを配るなど急きょ対応に乗り出した。

仙台市太白区、秋保温泉のホテル佐勘では、地震発生からの3日間で300人以上のキャンセルがあった。16日も朝から電話が鳴りっぱなしで、団体客の当日キャンセルも複数あったという。担当者は「これまでも災害が起きると風評被害はあったが、今回は特にひどい。被災地に温泉が含まれていたため、同じように見られてしまう」と頭を抱える。

盛岡市のつなぎ温泉のホテル紫苑(しおん)では、16日までに予約のキャンセルが約100人に上った。同ホテルは「地震の影響はなかったと説明しているが、落ち着くまでは時間がかかるかもしれない」と話す。沿岸部の宿泊施設にも影響は及んでいる。宮城県松島町のある観光ホテルでは、約100人の団体客が宿泊を取りやめるなどキャンセル数は500人を超えた。ホテルは「安全なことを分かってほしいが、われわれ業界が強調しすぎると逆効果になることもある」とお手上げの表情だ。

宮城県が14、15の両日、被災地域を除く県内の20施設を対象に緊急調査を実施した結果、14日のキャンセル数は1278人で、予約総数に占める割合は17.1%。15日は978人、14.9%に上った。同県観光課は「地震で新幹線が運休した影響も大きかった」と指摘。16日、県のホームページに「内陸北部以外の主要観光地への旅行は支障ありません」と掲載し、同じ内容のチラシを旅行会社にも配布。観光客の減少を食い止める懸命の呼び掛けを続けている。